

ANNUAL REPORT

2020



社会福祉法人
足羽福祉会



足羽ワークセンター
「あすわの木」スタッフ
(福井県立図書館にて)

ごあいさつ



社会福祉法人足羽福祉会

理事長 高村 昌裕

2020年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。ウイルスは巧妙に変異しながら各地でパンデミックを引き起こしており、世界中の社会経済活動がとてつもなく大きな傷を受けています。人類も国家レベルの強い対策、これまでにない科学者のネットワークや迅速なワクチン開発によってウイルスとの戦いに臨んでいます。ワクチン開発や確保をめぐる、国家間、自国内での新たな問題も生じています。そして何より現時点では終息が見えない長い闘いであることに、多くの人が不安をかかえたまま毎日過ごしています。

足羽福祉会でもこの1年は、県内の感染状況も踏まえながら対策本部会議をととして法人の対応レベルを設定し、感染防止対応を図りました。その際には利用者様やご家族、職員にもさまざまな社会生活上の制限をお願いしました。夏と秋に2度、計3人の職員が感染する事態が起きましたが、法人の新型コロナウイルス感染対策BCPをもとに、保健所や県クラスター対策班、行政担当課と密な連携をとりながら、現場職員の徹底した対応の結果、利用者様への感染および感染拡大を防ぐことができました。改めて日頃からの感染対策の基本の徹底の重要性を学ばせていただきました。

しかし「我慢の1年」だったかと言われると、いろんな新しいことにチャレンジできた1年でもありました。ICT活用による業務改善、生産性向上は、第IV期中期事業計画にも掲げていましたが、ウェブ会議の展開は予想以上に早く定着しましたし、ペーパーレス化につなげるグループウェア導入もスタートできました。手作りの新しい人事管理制度「あすわers」もスタートし、右往左往しながらも自分たちのキャリアパスの制度としての定着に取り組み始めました。各事業所も「できること」を試行錯誤しながら利用者様の「生きる」を支える取組みをし、様々な場面で職員の成長を感じた1年でもありました。今般、各事業の1年間の結果を、アニュアルレポートとしてまとめました。

明けない夜はありません。中期事業計画のキャッチフレーズの通り「たのしもう、つながろう、そしてのりこえよう」の精神で、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現のため、私たち足羽福祉会は利用者様と共に、地域と共に、職員と共に、日々チャレンジを続けていきます。

令和3年6月
理事長 高村昌裕

法人理念

共に生き、共に集う、光を求めて



職員行動指針

私たちは、人として、
福祉専門家として
「共に生きる人」を目指し、
利用者様と共に、地域と共に、
職員と共に歩みます。

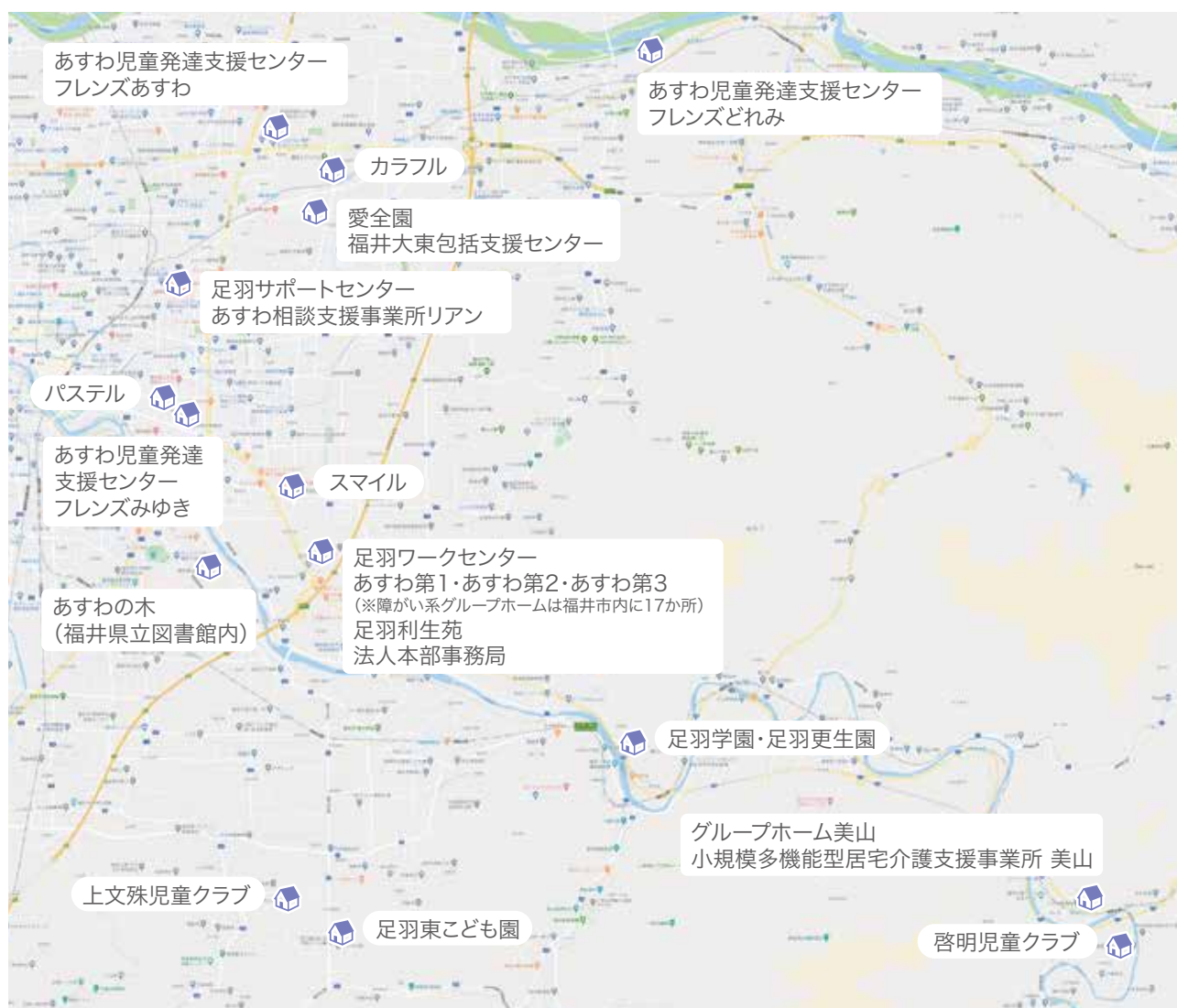


足羽福祉会の主な事業

子ども福祉	放課後学童クラブ	啓明児童クラブ、上文殊児童クラブ
	幼保連携型認定こども園	足羽東こども園
	福祉型障がい児入所施設	足羽学園
	障がい児通所支援	フレンズあすわ、フレンズみゆき、フレンズどれみ
	相談支援事業	あすわ相談支援事業所リアン
障がい者福祉	障がい福祉サービス事業（就労支援）	足羽ワークセンター、足羽サポートセンター、パステル、スマイル、カラフル あすわの木（福井県立図書館内）
	障がい福祉サービス事業（生活介護、入所支援）	足羽更生園
	障がい福祉サービス事業（グループホーム）	あすわ第1（たんぼぼ、さつき、ほほえみ、はばたき） あすわ第2（はやぶさ、あすか、そよかぜ、つぐみ、とうごう、こもれび、きらり、つばさ） あすわ第3（ひだまり、なごみ、はるか、さくら、ひまわり）
高齢者福祉	特別養護老人ホーム	愛全園、足羽利生苑
	地域密着型事業	グループホーム美山、きらく楽（足羽利生苑内）、愛全園グループホーム（愛全園内） 小規模多機能型居宅介護支援事業所美山
	相談支援事業	福井大東包括支援センター（愛全園内）
公益的取り組み		ボランティア育成事業（足羽川ふれあいマラソン）、災害時の地元住民避難受入協定、 自閉症支援者養成セミナー、介護分野の地域支援事業、 県内法人連携協の生活困難者相談支援事業 等々

拠点のご案内

当法人は福井市東部を主な活動場所としております。



Annual Report 2020

2020年度 報告概要(法人全体)	ページ
法人重点項目について	6
その他活動報告	8
もっと魅力を知っていただく(法人広報戦略)	10
データで見る足羽福社会2020	11
2020年度苦情種別・苦情内容及び解決状況	12
新型コロナウイルス感染防止対策について	14
(社会福祉事業)	
啓明児童クラブ	15
上文殊児童クラブ	16
足羽東こども園	17
足 羽 学 園	18
あすわ児童発達支援センター	19
足羽ワークセンター	20
スマイル	21
カラフル	22
足羽サポートセンター	23
パステル	24
足 羽 更 生 園	25
あすわ相談支援事業所リアン	26
あすわ地域生活支援センター	27
愛 全 園	28
足 羽 利 生 苑	29
グループホーム美山	30
(公益事業)	
福井大東包括支援センター	31
足羽福社会決算報告	32
貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書	
2021年度へ	33

2020年度法人事業報告

法人重点項目について

1 本人中心の支援

こども福祉、障がい者福祉、高齢者福祉の各分野において、コロナ禍の制約がある中で本人中心の支援(事例検討や権利擁護)に積極的に取り組み、その一部をサービス実践報告会で発表しました(動画と報告集で公開)。



サービス実践報告
動画撮影 2021.2.24



「Yell Fukui」販売会
(於:ワイプラザ新保店)
2020.12.4~6

2 地域課題の解決

地域のさまざまな課題について、評議員(地区社協会長等)より地域ニーズを伺いました。また、管理職研修でSDGsの理解を深め、当法人が取り組むべき課題について思いを共有し、次年度以降の足羽福祉会SDGs宣言と実践につなげていきます。



管理職向け
SDGs研修
2020.12.8

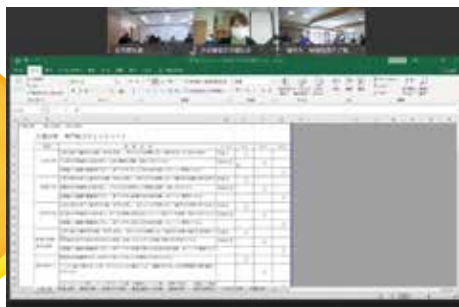


地域課題ディスカッション
(評議員会)
2021.1.23

3 新人事管理制度

新人事管理制度「あすwers」の運用1年目ということで、同一労働同一賃金を踏まえた給与規程、人事委員会の設置、教育専門コースのあり方など、未整備な部分の検討、制度化に多くを割かれ、職員の理解浸透に課題が残る一年でした。

「あすwers」
評価者研修
2021.1.19



「あすwers」制度説明
2020.7.20・27・8.7

4 ICT活用

4月よりWeb会議を導入し、移動時間の削減とともに、委員会、研修、他法人との連携などに幅広く活用できるようになりました。グループウェア導入に向けた検討も進め、次年度運用開始後のペーパーレス化、電子決裁に向けた準備を行いました。

グループウェア、
業務用スマホ
導入準備



22か所を結んでの
Web年賀式
2021.1.4

5 小規模事業所の経営安定化

小規模事業所(フレンズあすわ、パステル、リアン)の経営安定化に向け、法人10か年資金計画に基づき、運転資金の繰入金による支援の他、事業所それぞれの経営改善策を検討し、次年度以降の経営安定化への見通しを立てました。

パステル



あすわ相談支援事務所
リアン

その他活動報告

利用者様と 共に

1 夢や幸せを実現するために強みを生かす取組み

さまざまな連携の模索

利用者様支援のため法人内外交流、異業種研修などの連携は、新型コロナの影響もあり、次年度の検討課題になりました。

2 安心、尊厳を守る取組み

サービスの基本は接遇にあり

次世代接遇トレーナーの養成、トレーナー不在の拠点へのサポートを行いました。

コロナ対策BCPの策定

変化する状況に対応できるよう内容の更新も行いました。

安全運転で安心を

既存公用車全台にドライブレコーダーを設置。安全運転の更なる意識向上を目指します。



接遇トレーナー職員

地域と 共に

1 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

足羽川ふれあいマラソン

外部の方による組織委員会を立ち上げました。大会は延期になりましたが、いただいた意見を今後活かしていきます。

SDGsへの取組み

SDGsフォーラムに参加し、管理職対象の研修を行い、今年度は法人のSDGs宣言を行う予定です。

足羽川
ふれあいマラソン
組織委員会
(於:木田公民館)



2 地域のために法人資源を活用する取組み

地域の声、地域の資源を活かす

新型コロナの影響により視察見学等の受け入れはできませんでしたが、評議員会において地域課題等のご意見をいただくことができました。

法人としての役割を果たすために

県内法人連携協議会の事業、認定就労訓練事業の登録を完了。認知症サポーター養成講座は、前年度約80名の職員が受講、次年度も引き続き開催していきます。

認知症サポーター
養成講座
(法人内Web開催)



職員と
共に

1 目標を描き、共に成長する取組み

各種研修の実施

評価者研修、SDGs研修、トヨタ式片付け研修を実施。

Webの積極活用

Web会議の実施、グループウェアの導入準備など。

あすわ女性活躍推進会議(L☆会)

子育てと仕事の両立支援のため、社内報に職員の体験談を掲載し、思いの共有に努めました。



女性活躍推進
企業表彰
(フレンズあすわ)

2 安心して働ける健康経営の取組み



法人内託児所の活用

毎月平均20名以上の利用があり、職場環境の充実に寄与しました。

規程の整備

同一労働同一賃金対応の規程類の整備、労務に関する個別対応、労働条件通知に関する周知を行いました。

心の健康を守る

ストレスチェックの結果は各GMへ周知し、対応を検討していきます。また、人事管理制度の周知、同一労働同一賃金の考え方の「見える化」を行いました。

3 共に働く人を呼び込む取組み

デザインを
一新した
採用サイト



魅力をアピール

採用ホームページを刷新。SNSや広報誌等を活用し、法人ブランドを強化。法人内説明会や就活イベントでは、若手職員が仕事の魅力をアピールしました。

障がい者雇用への取組み

障がい者法定雇用率は4%（職員19名）を達成しました。

大学・短大のインターンシップ受け入れ

計13名を受け入れ。新型コロナの影響もあり、一部は動画を活用しました。

外国人労働者の採用状況

県内の介護福祉士養成校と契約を行い、4名の人材を確保しました。EPAでは、2名の採用候補者との契約を目指しています。



外国人
介護福祉士候補者
オンライン面談

もっと魅力を知っていただく



各種メディアを活用し、法人の魅力を発信しました



職員1分動画の配信
(足羽福祉会YouTubeチャンネル)



足羽福祉会採用サイト
(新規リニューアル)



FBCテレビ「NEXT 就職戦線 企業の星」
(足羽ワークセンター：濱岸支援員)



足羽ワークセンター ワイプラザ販売会記事
月刊URALA:2020.10



ふくいのお仕事図鑑2021
(愛全園 佐伯介護福祉士)



求職者向け説明会PR
(福井新聞)



福井新聞求人広告
2020.12.30



「あすわの木」「あすわの美」に続き
法人公式Instagramも開設

- 女性活躍推進企業プラス(福井県)
- 女性の活躍推進宣言企業・ポジティブアクション取組企業(厚生労働省)
- ふくいの働きやすい企業2つ星(福井県)
- キャリアアップ推進企業(福井労働局)
- 「プラス1雇用」宣言企業/プラス1女性雇用(福井県)
- 福井市子育てファミリー応援企業(福井市)
- ふくい介護人材育成宣言事業所(福井県)
- I・Uターン雇用推進企業(福井県)
- インターンシップ受け入れ企業(福井県)
- 社員ファースト企業認定(福井県)



2019年度実績

●見学受入れ176名・9団体 ●ボランティア受入れ(延べ)1,018名 ●実習受入れ236名・インターンシップ受入れ3名 ●地域とのつながりのあるイベント/「招く」201回、「出向く」492回 ●外部に講師として派遣した職員59名 ●外部研修に派遣した職員543名

データで見る
足羽福祉会
2020

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年1月以降の受入れ・活動等は中止しております

12,767名

【就労支援】
あすわの木(福井県立図書館)
福井県立図書館内カフェ「あすわの木」に来ていただいたお客様数



12,200個

【就労支援】
あすわの実(足羽ワークセンター)
足羽ワークセンター「あすわの実」で販売したお弁当数

雇用数・各種休暇取得率・離職率

112名

高年齢雇用者数



34名

時短勤務職員数

100%

産休・育休取得率



37.1%

女性管理職率

9.16%

離職率(全国:14.5%)

※2019独立行政法人福祉医療機構調べ



53.1%

年次有給休暇取得率

事故・ヒヤリハット件数

811件

事故報告件数



349件

ヒヤリハット件数



豪雨災害義援金募金

100,861円

各拠点から募った豪雨災害義援金(福井県共同募金会へ)

障がい者雇用数および雇用率

19名

4.0%



障害者雇用率制度

従業員が一定数以上の規模の事業主は、従業員に占める身体障害者・知的障害者・精神障害者の割合を「法定雇用率」2.3%以上にする義務があります。(障害者雇用促進法43条第1項)

福祉サービス 第三者評価受審状況

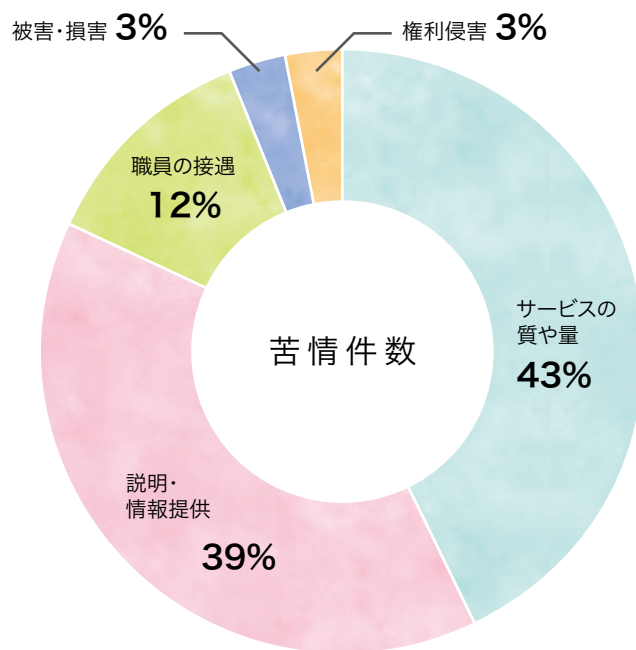
2020.4~2021.3

スマイル
足羽更生園

2020年度苦情種別・苦情内容及び解決状況

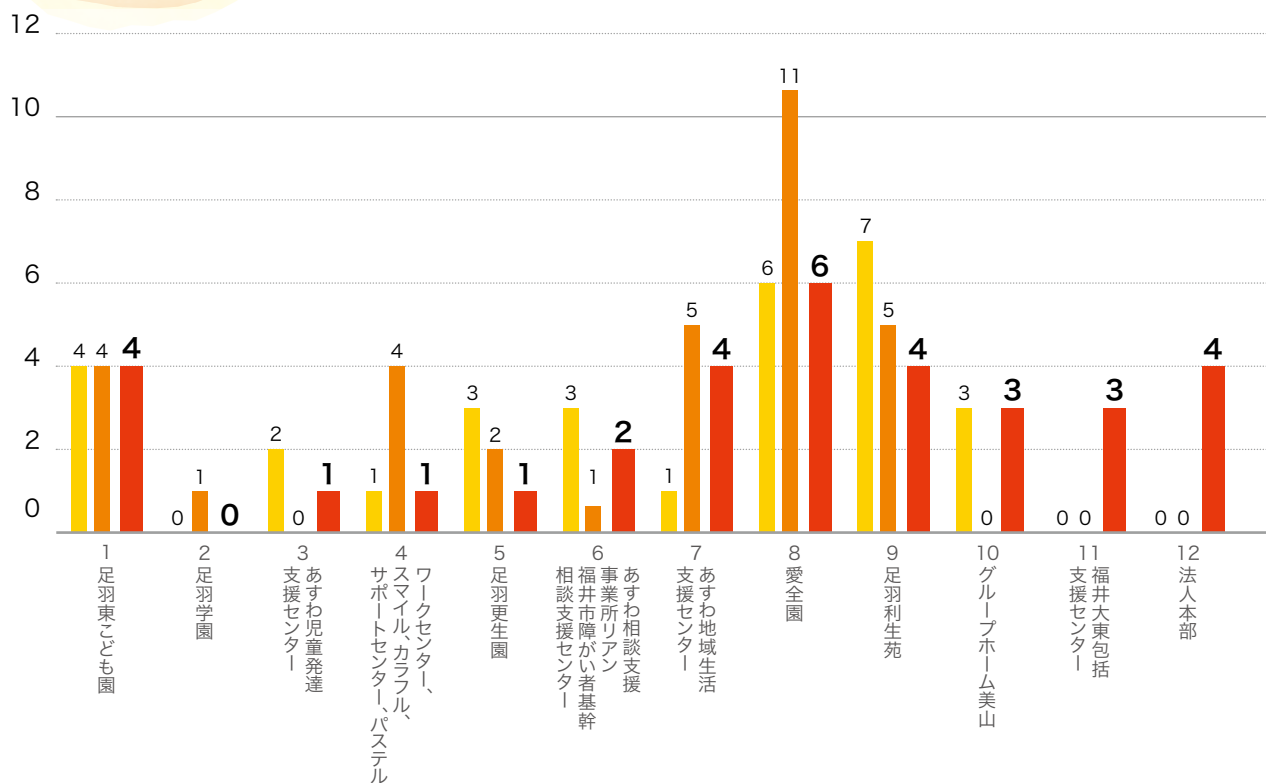
苦情件数
2020年4月1日～
2021年3月31日

区分	受付件数	割合(%)
サービスの質や量	14	43
説明・情報提供	13	39
職員の接遇	4	12
被害・損害	1	3
権利侵害	1	3



年度別拠点別にみる
苦情受付件数の
推移グラフ

件数(件) ■ 平成30年度 ■ 令和元年度 ■ 令和2年度



2020年度苦情種別・苦情内容及び解決状況

拠点名	苦情内容	受付件数	苦情解決の経緯		結果	
			話し合い	解決	解決	継続中
足羽東こども園	サービスの質や量	3	3	3		
	説明・情報提供	1	1	1		
あすわ児童発達支援センター	職員の接遇	1	1	1		
ワークセンター、スマイル、カラフル、サポートセンター、パステル	職員の接遇	1	1	1		
足羽更生園	サービスの質や量	1	1	1		
あすわ相談支援事業所 リアン	サービスの質や量	2	2	2		
	サービスの質や量	2	2	2		
あすわ地域生活支援センター	被害・損害	1	1		1	
	権利侵害	1	1	1		
愛全園	サービスの質や量	2	2	2		
	説明・情報提供	4	4	4		
足羽利生苑	サービスの質や量	2	2	2		
	説明・情報提供	2	2	2		
グループホーム美山	サービスの質や量	1	1	1		
	職員の接遇	1	1	1		
	説明・情報提供	1	1	1		
福井大東包括支援センター	職員の接遇	1	1	1		
	説明・情報提供	2	2	2		
法人本部	説明・情報提供	4	4	4		
合計	説明・情報提供	14	14	14		
	サービスの質や量	13	13	13		
	職員の接遇	4	4	4		
	権利侵害	1	1	1		
	被害・損害	1	1		1	

(2020年4月1日～2021年3月31日までの実数)

主な苦情内容

足羽東こども園

コロナ禍での実習生受入れについて。

行事ビデオの園児撮影漏れ。
お迎え時の安全確認不足。
身だしなみ注意時の配慮不足。

足羽サポートセンター

除雪時の雪捨て場について。

あすわ児童発達支援センター

職員の児童に対する接し方。

あすわ地域生活支援センター (あすわ第1、あすわ第3)

他人のLINEアカウント使用。
住所変更代行の手続き遅れ。
利用者様作業中の把握不十分。

足羽利生苑

身だしなみ、整容の不備について。
利用者様の着替え等の間違い。

愛全園

家族の面会不可について。
利用料請求誤り。
保険証コピー誤り。
利用料の説明不十分。
職員のコロナ検査による利用者様の外出制限。

グループホーム美山

サービス提供変更の連絡不備。

新型コロナウイルス感染防止対策について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、当たり前の日常が一変した年でした。当法人の福祉サービスをご利用いただいている皆様とご家族には、感染症対策により多大なご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

利用者様や職員への感染防止体制を図る中、withコロナ時代におけるエッセンシャルワーカーとしての責務の大きさを実感した1年でもありました。以下、令和2年度の法人における新型コロナウイルス感染防止対策の対応報告をいたします。

新型コロナウイルス
感染防止対策
令和2年度報告

対応履歴

- 2020年 4月 新型コロナウイルス対策事業継続計画(BCP)の策定
- 9月 新型コロナウイルス対策事業継続計画(BCP)の改訂
- 10月 福井県社会福祉施設コロナ感染対応訓練の実施(足羽更生園)
- 11月 足羽更生園職員感染発症への対応
法人ホームページへ感染状況公表
- 12月 理事会にて法人感染状況及び防止体制報告
新型コロナウイルス従事者慰労金の支給(障がい分野・高齢分野)
小学校等休業応援助成金の活用
- 2021年 1月 新型コロナウイルス従事者慰労金の支給(子ども分野)
法人PCR検査キットの購入
福井県、福井市、酒生公民館等より感染対策備品の配布及び寄贈
法人各事業所職員感染関連報告書・職員行動記録様式の統一

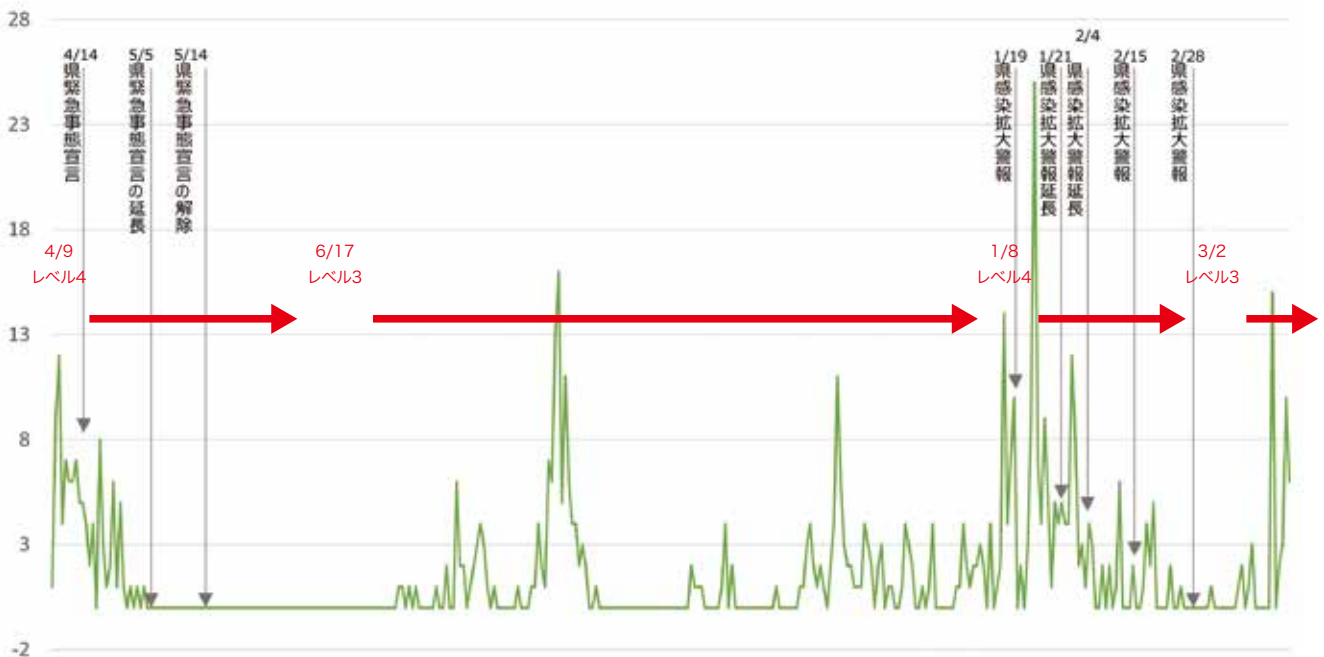
- (随時) 感染防止用備品対応。マスク・手指消毒・フェイスガード等の随時発注
- (年間) 新型コロナウイルス対策本部Web会議の開催 計21回
感染症防止体制(No.4~22)の周知徹底/GM会議

福井県の
新型コロナウイルス
新規感染者状況と
法人の対応

足羽福祉会感染防止体制(危機管理レベル)

レベル3 各施設の行事等は状況を判断し、柔軟に対応する。 **レベル4** 行事等は中止。不要不急の外出は自粛

期間：令和2年4月～令和3年3月





啓明児童クラブ

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。
仕事と子育ての両立支援。
- (2)利用者層(対象利用者) 美山啓明小学校又は羽生小学校に通う児童(1年生から6年生)
- (3)所在地 福井市朝谷町1-20 美山啓明小学校(幼稚園)内
- (4)管理者名 岩本 昌雄

新型コロナを受け学校が休校になる中、6月の学校再開に向け、児童クラブの環境を整えました。

館内での密を防ぐため、ホールを活動場所にし、暑さ対策として、空調と日よけを設置しました。学校のご厚意で、備品や校庭、体育館もお借りしました。

地域交流が激減する中で「ふたつの年間テーマ」を設け、館内でできる活動に工夫を凝らし、楽しみながら学べるよう取り組みました。

テーマ①「日本に伝わる文化や心の素晴らしさを伝える」



フラワー
アレンジメント
(年3回)

身近な草花を使い簡単に生け花を作り、お家の玄関に飾ることで来客をおもてなしすることができます。正月飾りの意味を知り、年神様を迎える準備をするために、お家でもできることを考えてもらい正月花を生けました。

お茶会

「お茶会」を開き、おもてなしする側とされる側双方の気持ちの大切さを学び、緊張の中にもお茶会を楽しみ、お茶の所作を育む体験をしました。

テーマ②「子どもたちが主体となり、活動を充実したものに」

事前に大きい子を主体として打ち合わせを重ねる企画会議を開催しました。意見を出し合いまとめる大変さや、当日のタイムスケジュールなど、たくさんの決めなければいけない事を知り、小さい子にも流れを伝え、みんなで楽しむことができました。また実施後に見つかった改善点などは、今後の参考にしていきます。

夏休みの活動
(夏休み期間を
利用して実施)



ミニ運動会

小学校の体育館をお借りしてチーム対抗戦や個人戦など。



お菓子バイキング

お金を事前に作り、看板やチラシも作製。一人100円のお小遣いとして、お店屋さんとお客さんになる。お店屋さんは、集客をするための呼び込みや会計の大変さも体験。



綿菓子機体験

綿菓子機で各自が作ってみる。子どもたちが一番テンションUP。

次年度に
向けた取り組み

子どもたちの個性や意見の尊重は、どの環境下でも認め合えます。地域との関係性も同様に、交流の新たな在り方についてチャレンジしていきます。

上文殊児童クラブ

(2021年4月1日現在)



- (1)事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。
仕事と子育ての両立支援。
- (2)利用者層(対象利用者) 上文殊小学校に通う児童(1年生～6年生 人数26名)
- (3)所在地 福井市生部町36号6番地
- (4)管理者名 永松 真



手洗いの徹底
(年間実施)

コロナウイルス感染予防の実践

学校教育課の指導(新型コロナマニュアル等)に沿って、日々職員がクラブ内の感染予防を徹底しました。(消毒、定期的な換気等)

保護者のご協力のもと、児童への健康管理指導(検温、マスク着用、手洗い、密を避ける等)も1年間継続しました。



宿題・
おやつ時間

児童が生き生きと楽しめる活動の実施



お誕生会
2020.6.5



ハロウィン
ゲーム
2020.10.30

蓄光粘土工作
2020.8.12



雪遊び
2021.1.27



年間を通して児童が自分らしく過ごせるよう個性に合った接し方を行い、良いところや成長を保護者や本人に伝え、ほめ喜び合いました。

学習や遊びについては、材料や道具等を整え、児童一人ひとりが密をさけながら、充実して活動できる空間づくりを行いました。

遊びの中に年間行事等を積極的に取り入れました。また、学校休業日は児童が楽しく思い出に残るクラブ内活動を計画し実施しました。

年間行事(学校再開の6月より実施)七夕会、ハロウィンゲーム大会、クリスマス会、雪遊び、節分会、ひな祭り会、お花見会

誕生会(年間7回実施)職員手作り色紙をプレゼント

夏・春の学校休業日(お楽しみ会:延べ5回実施)昼食:弁当利用5回、蓄光粘土工作1回

法人施設と連携し、コロナ感染予防を徹底しながら、放課後や長期休業日に児童に安全で安心な場所と楽しい活動を提供し、保護者が子育てと仕事を両立できるよう支援を行っていきます。

次年度に
向けた取組み



足羽東こども園

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 幼保連携型認定こども園 定員数/1号:6名、2・3号:130名
- (2)利用者層 0～5歳児の乳幼児
- (3)所在地 福井市東大味町10-1-1
- (4)管理者名 三上 登美子

子ども達一人ひとりの良いところを認め合う教育保育の実践



お絵かきごっこ
2020.11.12

園の全体計画に沿って、子ども達一人ひとりの成長や発達に合わせた教育・保育を丁寧に実践しました。コロナ禍において保育活動の充実を図るため、園全体での話し合いや工夫を行いました。

特に日々の感染症対策により、子どもは衛生や健康安全の事を、より多く学ぶ事ができました。またコロナ感染拡大防止により、就学等への接続活動が制限された事を補うため、保育教諭、教員、関係機関が連携をとり、個々の良い点、関わりが必要な点など情報交換や懇談を多く行いました。



水遊び
2020.7.16

新型コロナウイルス感染防止に向けた保護者との連携、情報提供の充実

新型コロナの流行により、家庭時間での子どもとの関わりが多くなった保護者に、子ども達の笑顔や楽しい活動の画像などの情報を多く提供することで、家族の会話や育児支援につなげることができました。

また、毎日の健康カードや連絡帳での健康管理の実施により、安心した保育サービス提供を行いました。連絡メールや新型コロナウイルスに関する手紙等で情報提供を頻繁に行うとともに、法人や園の対応などを都度お知らせしたことで、感染対策等について保護者の意識が高まり、園との連携や協力体制が深まりました。



毎日の
手洗い風景

雪遊び
2021.1.21



職員の確保策、次世代育成

法人の組織力を活かし、保育職を目指す人に当園の活動を積極的に発信しました。また、保育養成校や関係機関と連携し、感染対策の徹底を図りながら、保育等の資格取得や就職を目指している実習生を受け入れ、保育職の魅力を発信しました。(教育保育実習:7名、学生による活動提供:1回)

次年度に向けた取組み

子ども達により良い教育保育を提供できる新園舎建設に向け、本部、設計事務所等との話し合いを行っています。また仮園舎での保育が安全で快適に行えるよう、保護者や地域住民、関係機関のご協力を頂きながら、全職員が一丸となり準備を進めています。



- (1) 事業内容 福祉型障害児入所施設:定員20名、短期入所支援:定員4名
- (2) 利用者層(対象利用者様) 18歳までの知的に障がいのある子ども
- (3) 所在地 福井市宿布町19-46-1
- (4) 管理者名 嶋田 富士男

各年代にあった支援と支援力向上のための取組み

個別療育



自立課題設定

未就学児に対する発達支援プログラムの確立と成人期につなぐ支援に取り組み、就学に向けた活動提供、高等部の利用者様に対するケース会議など、今、身につけてほしい力を養う支援を行いました。



ここ数年力を入れて取り組んでいるPECS研修やスーパーバイザー研修を軸に職員間で学びを共有しながら取り組みました。PECSでは、学んだ職員が他の職員に伝えながらコミュニケーションができた場面の喜びを感じることができました。

コロナ禍での「新しい生活様式」を身につけるための取組み

新型コロナ対策のマスク着用は、障がい特性から高いハードルでした。職員は地道に促しを行う中で、嬉しい成長も見られました。これからも『withコロナ』で子ども達の生活を守っていききたいと思います。



下校時の風景



お祭り 2020.10.17

みんなの笑顔でコロナなんて吹き飛ばせ～

コロナ禍の中で、職員は頭をひねって園内でできることに取り組むことができました。テイクアウト先を選んで買い物、園内に模擬屋台を開設してお祭りごっこなど「今できる事は何か」を考えて取り組み、たくさんの笑顔に出会う事ができました。

次年度に向けた取組み

- ① 児童福祉部門間で連携しセミナー開催等に取り組みます。
- ② ICTを活用し、職員の業務量を確認しながら個々の業務量の適正化に取り組みます。
- ③ Web研修、eラーニング等を活用し、学んだ知識を職員間で情報共有し、支援力向上に取り組みます。

あすわ児童発達支援センター

(子ども発達支援センターフレンズあすわ・フレンズみゆき・フレンズどれみの総称)

(2021年4月1日現在)

●子ども発達支援センターフレンズあすわ

- (1)事業内容 ①児童発達支援:定員12名
②放課後等デイサービス:定員10名
③保育所等訪問支援
④短期入所:定員5名
⑤児童発達支援センター機能強化事業
- (2)利用者層 ①就学前の児童(7歳未満)
②学齢期の児童(6歳以上18歳未満) ③18歳未満の児童
④当センターの利用者様 ⑤福井市内在住の方
- (3)所在地 福井市大和田1丁目1607
- (4)管理者名 渡辺 浩基

●フレンズみゆき

- (1)事業内容 放課後等デイサービス:定員10名
- (2)利用者層 学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
- (3)所在地 福井市御幸4丁目106-2
- (4)管理者名 渡辺 浩基

●フレンズどれみ

- (1)事業内容 放課後等デイサービス:定員10名
- (2)利用者層 学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
- (3)所在地 吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128
- (4)管理者名 渡辺 浩基



フレンズ
どれみ外観

新規事業所の開設

法人として初めて、福井市以外にフレンズどれみを開設しました。フレンズあすわを利用されていた方やその周辺地域にお住まいの方にご利用いただくと共に、新たな地域ニーズにもお応えしていきました。公共交通機関へのアクセスも容易な場所で、将来の選択肢が広がるようなサービス提供を行ってまいります。



多様なニーズへの対応

児童発達支援事業は定員を増員し、より多くのニーズに対応できる体制を整えました。それぞれのクラスで「コミュニケーションの芽生えを育てること」「コミュニケーションの広がり育てること」を目的に挙げ、療育を行っています。土曜日に年長・年中クラスを増設し、小学校入学前に必要なスキルや子ども同士の活動、自分自身に自信をもてるようなプログラムを実施しています。

年長クラスの
活動



医療的ケアの必要な子どもへの支援

昨年度から受け入れを開始した、医療的ケアの必要な子どもたちのクラスも定着し、看護師のケアを受けながら療育を行い、ご本人・保護者が安心して利用できる事業所として地域ニーズに応えられるよう環境を整えました。

次年度に に向けた取組み

- ①医療的ケアの必要な子どもへの支援体制を更に拡充できるよう体制を強化していきます。
- ②当法人のこども部門合同でアート展、セミナーを開催し、安心して子育てできる環境整備を行います。
- ③ICT活用、人材育成など、サービスの質向上と職員の資質向上、働きやすい環境整備を行います。

足羽ワークセンター

(2021年4月1日現在)



- (1)事業内容 就労移行支援事業:定員10名、就労継続支援B型事業:定員30名
- (2)利用者層(対象利用者) 働くことに意欲のある障がいがある方
- (3)所在地 福井市梅野町20-5
- (4)管理者名 高村 昌裕

就労継続支援B型:「コロナに負けない」販売強化

新型コロナウイルスの影響で、福井県立図書館の喫茶スペース「あすわの木」は大幅な収益ダウン。イベントも軒並み中止。そんな中、下を向かず新しいことに挑戦と、行政向け注文配達を強化。また個人宅の高齢者配食サービスも始めました。口コミで地域の公民館や団体からも注文が増え、オリジナル「麹スムージー」の製品化、YouTubeチャンネルの開設にも取り組みました。

法人内老人福祉施設での介護補助受託事業、清掃受託事業、病院での清掃受託事業も、エッセンシャルワーカーを支える業務として、ほぼ計画通り取り組みました。単年度では工賃支給額はマイナスとなりましたが、次年度からの挽回の基礎固めはできました。



YouTube
始めました!!



麹スムージーは
ネットでもご購入
いただけます

就労移行支援:就職2名達成!!

4月からの法人内雇用2名の他、民間企業への就職に3人の利用者様が取り組み、見事2名の就職が実現しました。雇用して下さった企業が事業所の近くにあり、企業様からも本人からも様々な相談を受けながらアフターケアをしています。

ICT活用と業務改善で負担軽減をめざす

利用者様の半分以上が施設外就労となるため、職員の記録時間が送迎後の時間外になってしまう課題がありました。業務改善として、記録のモバイル化、音声認識機能活用に取り組みましたが、本格開始は次年度にずれ込みました。また給食事業の調理員の負担軽減のため、新しい厨房機器のフル活用を行い、早出、遅出時間の改善を図りました。有休休暇取得率は44%、月平均超過勤務時間が11.2時間/人と、働きやすい職場づくりに向けて課題も残り、次年度も改善、向上に取り組みます。

次年度に
向けた取組み

飲食事業の売上向上によりB型全体の平均工賃の2.5万円以上を目指します。就労移行支援事業のあり方を見直し、就職実績を高めるとともに、定着支援事業を開始して、アフターケア体制を確立します。ICT活用徹底と業務改善に継続して取り組み、超過勤務時間の30%減を目指します。



スマイル

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 生活介護:定員30名
- (2)利用者層(対象利用者) 重度の方で軽作業や余暇活動を通して生きがいをつくりたい方
- (3)所在地 福井県福井市和田東1丁目2105
- (4)管理者名 恵美 浄文

感染症対策による制限の中でも、新たな生活様式での体験を!

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、私たちの活動は今までとは大きく変化しました。そこで私たちは、利用者様と一緒に感染症対策について学び、実践していく中で、新たな生活様式を取り入れた活動を計画、実施していきました。

感染症対策
勉強会
2020.7.15



勉強会を通して

年5回、利用者様との勉強会を行いました。このうち4回は「感染症対策」として「手洗い」、「うがい」、「歯磨き」といった内容と共に、「コロナウイルス」に関して情報や予防方法をお伝えさせていただきながら、日々の活動や生活における消毒やマスク着用の必要性について、利用者様と共に学び、実践しています。

一つでも多くの楽しみを見つけよう

年4回、選択食を実施させていただきました。毎回、利用者様が2種類のメニューの中から好きなものを選択します。今年の夏は「かき氷のシロップの味を選択」、冬は「お好み焼きと焼きそば」など季節のメニューを取り入れたり、目の前で氷を作ったり、温めたりと、目で見て、香りを感じ、音を聞き、五感で感じることを大切にしています。いつもの昼食の時間が少しだけ特別な時間になります。



好きな味を
選んでいます

何に
しようかな?



新しい生活様式を取り入れた 体験の取組み

毎月1回の社会体験活動にも変化を取り入れました。感染状況により、所外施設や人が集まる体験等の外出はできなくなり、換気、消毒を実施しながらのドライブが主流となっていました。しかし、状況を見ながら活動を考え、レジでのソーシャルディスタンスを学びながら「ドーナツ」や「ハンバーガー」を購入したり、季節の食材「焼き芋」「桜餅」「人形焼き」を車内でいただいたりなど、従来の目的を変更して、より楽しんでいただく工夫をしました。

次年度に
向けた取組み

利用者様自身が自分のニーズを様々な方法で表現して、実現することができるように、支援方法の構造化やスケジューリングなど工夫をしています。そのために職員は、障がい特性や意思決定支援について学び、倫理観を知るなど、障がい者支援のプロとしての自覚と研鑽を高めていきます。



- (1) 事業内容 生活介護・定員30名
- (2) 利用者層(対象利用者) 高齢や重度の方で軽作業や創作活動を通して生きがいをつくりたい方
- (3) 所在地 福井県福井市林町62-3
- (4) 管理者名 恵美 浄文

利用者様の健康を第一に考え、意志を尊重した支援の提供

「生きがいづくり」活動は マスク着用、手洗い、換気、消毒の徹底で実施

私たちは、高齢の利用者様の「少しでも働きながら元気でいたい」との思いを尊重し「生き生きと活動したい」との思いを受容し、共に「笑顔」となる活動を提供しています。「ポッチャ」を週1回以上実施してみんなとの一体感を楽しみにしていましたが、コロナ禍によりできず、今は感染予防に努めていつでも交流ができるよう準備しています。



「ポッチャ」の
活動が
待ちどおしいです



食べたいものは
自分で選びます

選択食の取組み

年4回の選択食では、利用者様が視覚情報を基にメニューを選び、それを目の前で温め五感で感じていただいています。「自分のことは自分で決める」機会を大切にしています。

旅行は大きな
楽しみのひとつ

コロナ禍の中でもできることを！ 研修旅行に参加してさまざまな体験

行き先は利用者様の希望を伺いコースを設定、視覚情報などでコース選びから食事メニュー、体験内容などさまざまな選択をします。今年度は、県内日帰り3コースに参加されました。



利用者様の「生きがいづくり」として、創作活動やユニバーサルスポーツ(卓球バレー、ポッチャ等)を継続的に取り入れます。コロナ禍の状況を鑑みながらになりますが、感染症対策を行い、地元小・中・高等学校や地域の方との交流の機会を考え、共に喜びを見出していきます。

次年度に
向けた取組み



足羽サポートセンター

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 就労継続支援B型事業:定員30名
- (2)利用者層(対象利用者) 働きたい意欲がある障がいがある方
- (3)所在地 福井市米松2丁目6番28号
- (4)管理者名 渡辺 順子

足羽サポート
センター移転
2020.12.1



事業所移転

足羽サポートセンターは、2020年12月1日に福井市の米松に移転しました。移転後も利用者様が安心して活動できるように準備を進めた結果、利用者様、職員共に新たな気持ちで事業活動に取り組むことができました。利用者様の障がい特性に合わせた作業配置等を行ってきた結果、利用者様から「足羽サポートセンターに来るのが楽しい」と言っています。年間稼働率は120%を達成しました。

地域奉仕活動

自治会を利用して、利用者様に地域貢献の必要性を伝えてきました。その一環で事業所近隣の奉仕活動として、利用者様5～6名と職員2名で、ごみ拾いやバス停の掃除などを毎月1回実施してきました。そのことにより利用者様は、ごみを捨てることに関する意識が変わってきたようです。また、地域の方々からは、利用者様に対して良いイメージを持っていただけたと感じています。



バス停清掃
2021.3.25



作業支援(工賃向上)

平均工賃15,000円以上を目指しましたが、10,806円でした。原因としては、新型コロナウイルス感染症による施設外就労の減少によるものが大きかったです。

しかし、そんな中でも生産数を上げる努力や営業努力を行い、新規企業を獲得した結果、他の作業より単価の高い作業を行うことができました。

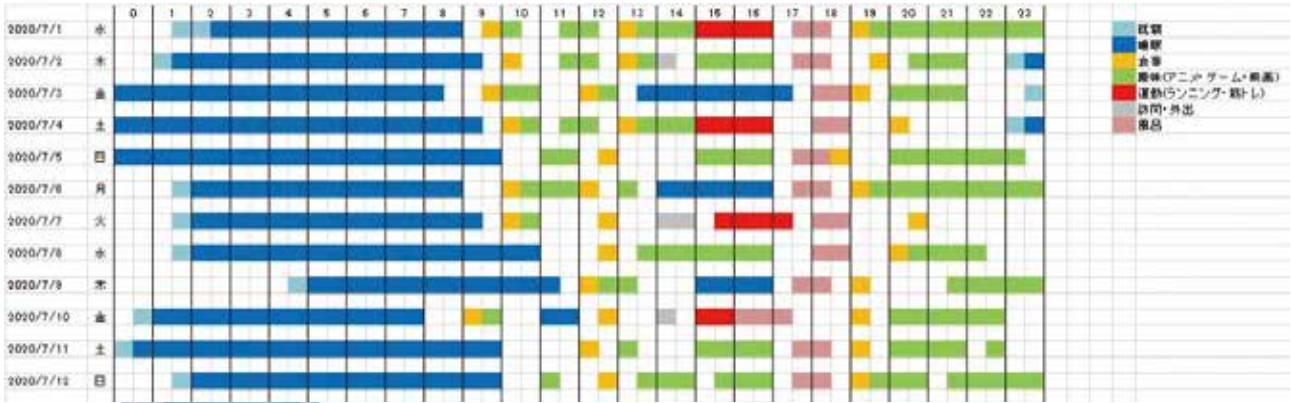
次年度に
に向けた取組み

障害特性に合わせた作業提供と笑顔で利用者様を迎えることで、安心して利用できる環境整備を行います。職員は、支援に関する専門知識を習得できるよう、勉強会や研修に参加してスキルアップを図ります。また、利用者様の体調管理を重点的に行い、利用者様が「私らしく働く」ための個別支援計画、チーム支援、事例検討を行います。



- (1)事業内容 自立訓練(生活訓練)事業:定員10名 就労継続支援B型事業:定員10名
- (2)利用者層(対象利用者) 精神障害者(発達障がい診断のある方)
- (3)所在地 福井市御幸4丁目1806
- (4)管理者名 敦賀 弘道

コロナ禍であっても利用者様の安心・尊厳を守る取組みと環境調整



PCメールによる
やりとり
(生活リズム表)

利用者様は、障がい上の特性や連日のコロナ報道、そして緊急事態宣言による外出自粛を目の当たりにし、全体の1/3程度の利用者様が不安や緊張により通所が困難な状態となりました。

利用者様には通所が再開できるように在宅での状況確認や電話やメールでの相談、ご家族にお話を伺ったりすることで不安の解消につなげました。どんな状況であっても利用者様に寄り添い、私たちができる支援や環境調整は何か、私たちが利用者様やご家族と共に考え成長させてもらった時期でした。

夢や希望を実現するために ご本人の強みや笑顔を引き出す支援

当事業所では、2020年度からアウトリーチ型の自立訓練(生活訓練)に力を入れています。

訪問による生活訓練のメリットは「対人関係に敏感でグループ活動に抵抗がある」「ひきこもりや地域からの孤立予防・改善のため」「通所サービスの利用は難しいが、生活上のニーズを在宅で改善・修正・習得」等があげられます。

社会経験は豊かでもコミュニケーションが苦手な利用者様に対して「良いところ探し」をしながら、季節の話題やカードゲーム、思い出話、読み聞かせ等を家庭の中で実施。そうすることで、少しずつ自信につながり、積極性の創出、本人の良い点を伝え理解してもらうことで、他者との交流の心地よさ、楽しみを引き出しています。

地域生活を継続させるための訪問支援の時間は貴重な時間となっています。



相談風景

在宅ワークも含め利用者様の活動の幅を広げます。
訪問型自立訓練を強化しアウトリーチ支援での実績を増やします。

次年度に
向けた取組み



足羽更生園

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 障害者支援施設 施設入所支援:定員60名、生活介護事業:定員60名
短期入所支援:定員4名、日中一時支援:定員5名
- (2)利用者層(対象利用者) 知的に障害のある18歳以上の方
- (3)所在地 福井県福井市宿布町19-46-1
- (4)管理者名 嶋田 富士男



新型コロナウイルス感染症に対する取組み

11月に、職員3名の新型コロナ感染が確認されましたが、幸い2週間の経過観察ののち速やかに終息に至りました。結果的に、10月に県や市など関係機関と連携しながらの図上訓練や実地訓練を行っていた事が迅速な対応につながったと思っています。また、日頃からの新型コロナの情報発信にて職員一丸となり対応に当たる事ができ、日々の取組みの積み重ねの大切さを実感しました。

新型コロナウイルス
発生時 PCR検査
2020.11.19



利用者様と
共に活動
(歩行)

個々に焦点をあてた支援の充実

ユニット化1年半がたち、個々のライフスタイルを意識した余暇活動やコロナ禍の支援に趣向を凝らし取り組みました。生活面の充実を図り、個々に応じた生活スキルを意識した支援にも取り組みました。



第三者
評価受審証

福祉サービス第三者評価受審

10月13・14日、4回目となる福祉サービス第三者評価を受審しました。ユニット化・完全個室化、個々のニーズへの対応や重度利用者様に対する支援が高く評価されました。今後は課題の改善に向け取り組んでいきます。

次年度に
向けた取組み

- ①利用者様個々のストレンクス(強み・力・良さ)を視点を置いた記録や個別支援計画で「成長の見える化」に取り組みます。
- ②「〇〇さんだより」を作り、利用者様の状況を発信することで、ご家族の不安軽減、安心につながります。
- ③スマイル・カラフルと連携して新たな生活介護事業所設置に向けて取り組みます。



- (1)事業内容 計画相談支援・障害児相談支援・地域移行支援・地域定着支援
- (2)利用者層(対象利用者) 障害種別を特定しない
- (3)所在地 福井県福井市米松2丁目6-28
- (4)管理者名 渡辺 順子

父亡き後、自立?家族と暮らす?悩むA様

A様は家族のキーパーソンであった父が他界した後、障がいのある母と妹との暮らしになりましたが、自宅は物が溢れ生活できない状態になったため、祖母宅で家族とともに暮らし始めました。

その後、これまでの自宅の管理・自身の健康管理・生活費の管理・携帯電話のかんたん決済を繰り返す等、家族を含め多様な課題が起きていることがわかってきました。そのためA様の支援者だけでなく、母の支援者、家族も含めた話し合いを重ねました。

A様には自立したいとの希望があったためグループホームでの生活に挑戦しましたが、体験した結果、家族の元に戻りたいと希望されたため、現在も家族と暮らす選択をされています。

A様とご家族の支援者をつなげ、思いを聞き取りながら支援を検討し、福祉サービス、その他金銭管理支援、生活困窮者事業などの提案、手続きや通院同行、携帯ショップ等への問い合わせ等を相談員がサポートしながら、現在もチームで継続した取り組みを行っています。



病院から地域に戻り、また働きたいB様

B様は福祉サービスの事業所で働いていましたが、精神疾患を発症し、妄想と現実の区別がつかず、迷惑行為から通所ができなくなり、治療のため精神科病院に入院となりました。

病院から、症状は軽減したが完治は難しいという意見のため、家族は退院に不安を持っていましたが、B様は働きたいとの希望を持っていました。そのため、入院中もソーシャルワーカーと協力して事業所の見学や作業体験を行う中で意欲の回復も目に見える形となり、安心して退院を迎えることができ、現在も通所を継続できています。

《計画相談支援・障害児相談支援・地域移行支援・地域定着支援の作成数》

計画相談支援／新規・更新・モニタリング 約820件
障害児相談支援／新規・更新・モニタリング 約200件
地域移行支援 1名 地域定着支援 4名



利用者様の夢や希望の実現、権利擁護の実現に立ち、計画作成、モニタリング作成を実施していきます。また、専門性向上に対する職員の学習意欲を尊重して外部専門研修への積極的な参加を進めていきます。

次年度に
向けた取り組み

あすわ地域生活支援センター (あすわ第1・あすわ第2・あすわ第3)

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 共同生活援助 3事業所 (グループホーム17か所) 140名
あすわ第1 グループホーム4か所 39名 あすわ第2 グループホーム8か所 62名
あすわ第3 グループホーム5か所 39名 短期入所 あすわ短期入所4名 ひまわり短期入所2名
- (2)利用者層(対象利用者) 地域で自分らしく暮らしたい方
- (3)代表所在地 福井市榑野町20-5
- (4)管理者名 あすわ第1/平澤 明 あすわ第2/吉村 宜利子 あすわ第3/荒川 待子

暮らし方が変わる 〈新しい生活様式の実践〉

新型コロナウイルス感染予防のため、地域で行われていた活動が軒並み中止になり、今まで自由にできていた外出や帰省も制限され、利用者様にとっては大きく生活が変わった年でした。コロナ禍でも地域で暮らすために「新しい生活様式」を職員と共に学び、マスク、手洗い、ソーシャルディスタンスなどに取り組みました。県からの情報を元に視覚情報を掲示し、できることを一つひとつ検討して支援を行いました。



マスクで
ブドウ狩り

おはぎ作りに
挑戦しました



おうち時間の充実 〈それぞれの楽しみを見つけよう〉

グループホームの中でも楽しめる事を利用者様と共に考え、実践しました。おやつや食事作り、それぞれの趣味を生かした創作活動、DVDを活用した映画鑑賞や勉強会、部屋の模様替えなど、外に向くことができないからこそ、個々の時間の過ごし方に着目し、穏やかな日々を送れるよう取り組みました。

家庭的な暮らしを目指して 〈少人数化への取り組み〉

あすわ地域生活支援センターでは少人数で家庭的な雰囲気のグループホームの整備を計画的に進めています。

10年以上前に定員20名でスタートしたグループホームたんぼぼを少人数化するために物件探しや定員変更等を利用者様支援と並行して行ってきました。

地域の方々や様々な人の力を借り、令和3年度に6名と4名(2共同生活住居)のNewたんぼぼの建設を行います。



朴葉取りから
行った
朴葉めし作り

次年度に
向けた取り組み

利用者様が自分らしく充実した生活ができるように、余暇活動や食事・おやつ作り等を支援します。引き続き「ほめ言葉のシャワー」の取り組みを実践し、職員も利用者様も幸せ時間を増やします。利用者様の生活環境向上のために、新たな地区でグループホームの新築を行い、ニーズが高まっている短期入所も併設します。



- (1)事業内容 ユニット型介護老人福祉施設60名・従来型介護老人福祉施設30名・短期入所生活介護35名
通所介護25名・居宅介護支援事業所・認知症対応型共同生活介護9名・地域支援事業
- (2)利用者層 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
- (3)所在地 福井県福井市丸山町40-7
- (4)管理者名 滝波 正興

新型コロナウイルス感染症への対応(何よりも利用者様の生活の安全安心を守る!)



細心の
注意で
感染対策

高齢の利用者様にとって新型コロナは安心安全な生活の継続を脅かす存在です。
職員もその事を十分理解し、ご家族の協力を賜りながら、普段のケア方法から見直しを図り「何よりも利用者様を守る!」の想いで、家族面会の工夫やケアマニュアルの見直し、感染対応訓練などできる限りの対応を行っております。その結果、現在のところ事業所内での感染は発生しておりません。

Webを
活用した
面会

新型コロナウイルス感染症で絶たれた地域コミュニティを少しでも



介護者のつどい
2020.10.31

新型コロナによる外出自粛が続く中、社会福祉法人として「できることは何か?」を常に考え、感染対策を充分にとりながら、地域住民・地区社協の方々と共同する中で、地域の高齢者が孤立しない取組みを行いました。

少しでも利用者様と共に楽しめる催しの開催



年末恒例
餅つき大会
2020.12.28

全ての利用者様が集う行事が制限される中で、年末には恒例の「年越し餅つき大会」を開催する事ができました。久しぶりに体を動かす機会となった利用者様は笑顔で、時には大きな声で、各々に楽しんでおられました。

新型コロナへの対応継続とワクチン接種のスムーズな対応。

コミュニケーション・OJTを通じ、一人ひとりが協力して目標を認識・達成できる体制作り。

次年度に
向けた取組み



足羽利生苑

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 介護老人福祉施設59名、(介護予防)短期入所生活介護15名、通所介護20名(福井市日常生活総合事業通所型A型・通所型予防給付相当含む)、地域密着型介護老人福祉施設18名、(介護予防)認知症対応型通所介護12名、居宅介護支援事業 地域支援事業
- (2)利用者層(対象利用者) 要支援・要介護高齢者
- (3)所在地 福井市梅野町20-7
- (4)管理者名 岩本 昌雄

「家族につながる」

介護力向上の継続とACP取り組み(2019から2020へ)

新たな目標をACP(アドバンス・ケア・プランニング)に置き、実現に向けて情報収集や環境整備、各種連携による共有の意思確認書作成に向けたサービスの構築にチャレンジしました。

歩行訓練



「お母さん
元気かア」



「家族とつながる」

新型コロナ禍における家族との交流支援

年度当初からご家族の面会を制限させていただいておりました。オンラインでの面会も実現できましたが、苑内の予防対策ゾーンとあわせて玄関内に「面会室」を設け、対面を実現しました。

【予約家族現況】(平均)

平日:1~2件/日 土曜:2~3件/日 日曜:11件/日

【面会ルール】

- ①時間は15分以内 ②予約制
- ③日常面会者2名様 体調管理等情報聞き取り(県外の方は要相談)
- ④面会前後の標準予防策の徹底

グッドネス報告の深化で

「グッドネスの木の成長と共に、 職員の良い気づきの目も成長」

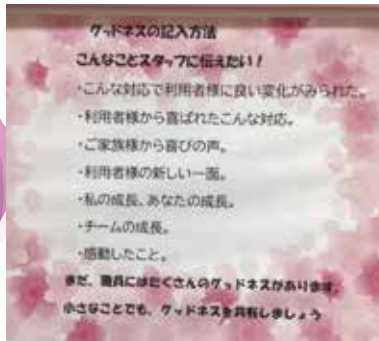
「木」の
利用者様作

健康・明るく・活気ある 職場づくりに 全員参加で取り組む

職員のモチベーションアップの取組みとして、グッドネス報告をしています。良い出来事、感謝の気持ち等、伝えたいことを葉っぱに書いて、利用者様に作っていただいた木に貼っていきます。毎月のユニット会議録内でも報告を行っており、今年度は最多の数がありました。

読んだ職員からは「いいね」「うれしい」という声が聞こえます。

職員の
いいとこ探し



次年度に 向けた取組み

- ①「家族につながる」「家族とつながる」サービスの向上進展に取り組めます。
- ②地域との交流支援の新たな関係性の在り方創造に取り組めます。
- ③高齢者福祉部門間の連携強化、充実に取り組めます。

- (1) 事業内容 認知症対応型共同生活介護：定員9名、小規模多機能型居宅介護事業所：定員29名、
その他緊急時対応ショートステイ各1名
- (2) 利用者層(対象利用者) 要支援・要介護高齢者
- (3) 所在地 福井市美山町6-1
- (4) 管理者名 藤原 行順



「地域と共に」 ～新型コロナ感染症拡大の中、地域の方からマスクを頂く～



新型コロナウイルスの感染拡大が始まったころ、街中からマスクがなくなりました。そのような中、地域住民の方がお手製のマスクを寄付してくださいました。未使用の浴衣等で作られたカラフルなマスクは、足羽学園の利用者様や職員にとって嬉しい贈り物になりました。

一つひとつ
手作りされて
います

「利用者様と共に」 ～withコロナで変わらない生活～



今までの生活が一変したこの1年。しかし、利用者様と職員はそのような中でも、豊かな生活が継続できるように取り組んできました。職員は感染症対策の徹底、利用者様のテーブルにはアクリル板を設置し、消毒の徹底を行いました。思ような外出もできず、家族との面会にも制限はありましたが、密にならない場所へのドライブ、ガラス越しやWebを使用した面会など、withコロナの生活を模索しました。

「地域と共に」 ～コロナ禍での地域交流継続～



グループホーム美山は地域密着として、地域交流ホールを使用したカフェを開催してきました。楽しみにされている地域の方も多数いますが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けこちらも中止せざるを得ませんでした。感染症対策の在り方が大分理解され、感染者数が下がってきた秋ごろ、会場を美山公民館に移して、感染症対策を徹底したカフェを再開することができました。久しぶりに顔を合わせた参加者の表情には、笑顔と安ど感が表れていました。今後も対策の徹底をしながら、地域交流を継続していきます。

昨年度は、新型コロナによりあらゆる事が制限された1年でしたが「利用者様と共に」「地域と共に」「職員と共に」は工夫して取り組むことができます。元の生活に戻る事だけを良しとせず、コロナ禍で見えてきた人の生きづらさに対し、人が生きるを「共に生きる」で支えていきます。

次年度に
向けた取組み



福井大東包括支援センター

(2021年4月1日現在)

- (1)事業内容 地域包括支援事業、介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
- (2)利用者層(対象利用者) 地域住民・65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び、40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
- (3)所在地 福井県福井市丸山町40-7
- (4)管理者名 藤田 佐富美

安心・安全に住み慣れたわが家、わが町で暮らせる取組み

コロナ禍での、住民の困りごとや要望などを聞き取りました。担当圏域の各地区で課題がそれぞれにあり、特にある地区において、新型コロナウイルス感染への不安が強く、デイホーム開催中止が続いた件に関して、包括支援センターとして予防教室を3回開催し、正しい感染予防の説明、飛沫感染防止パネルの体験や、フレイル予防のための体操や講座を行いました。

民生委員・福祉委員への働きかけやデイホームの専任職員さんとも連携し、次年度も働きかけを継続していく予定です。



介護予防教室
2020.12.25



認知症サポーター
養成講座
(Web開催)

研修・会議のオンライン化

新型コロナウイルスへの感染リスクを軽減するために、認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、ケアマネジャーを対象とした研修、医療機関との連携会議などをオンラインで実施。スムーズに運営できるまで法人本部の協力をもらい、包括支援センター内の環境整備や接続テストなど試行錯誤を繰り返しました。混乱は多々ありましたが、今後も定着に向けて取り組んでいきます。

地域とのネットワークで住民支援

今年度は4月の新型コロナウイルス感染拡大防止での自粛期間と年明け1月の大雪期間など、ひとり暮らし高齢者の状態確認や支援などでは、民生児童委員・福祉委員など地域住民の尽力を得て乗り越えることができました。今回の件で日頃から情報の共有とつながることの重要性を再確認しました。地域で熱心に活動する地域の皆様に感謝申し上げます。顔の見える関係づくりをさらに進めてまいります。



包括支援センター事業内容の説明

地区社協
研修会

次年度に
向けた取組み

これまでに地域の情報収集・分析を行い、地域課題に挙げたものに取り組めます。ある地区では新型コロナによるフレイル予防活動、別の地区では特に一人暮らし男性への生活アドバイスを、そして地域の災害対応力向上のための会議を開催し、体制の構築を図っていきます。

2020年度 足羽福社会決算報告

貸借対照表 (2021年3月31日現在)

単位:円

貸借対照表			
流動資産	798,865,647	流動負債	378,660,551
固定資産	3,461,836,770	固定負債	476,692,836
基本財産	2,559,909,260	負債の部	855,353,387
その他の固定資産	901,927,510	基本金	155,157,823
		国庫補助金等特別積立金	744,652,687
		その他の積立金	209,123,082
		次期繰越活動増減差額	2,296,415,438
		(うち当期活動増減差額)	-21,836,732
		純資産の部	3,405,349,030
資産 合計	4,260,702,417	負債及び純資産 合計	4,260,702,417

事業活動計算書 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)

事業活動計算書	
サービス活動収益計①	2,962,536,730
サービス活動費用計②	2,988,990,040
サービス活動増減差額③=①-②	-26,453,310
サービス活動外収益計④	10,736,324
サービス活動外費用計⑤	4,306,872
サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	6,429,452
経常増減差額⑦=③+⑥	-20,023,858
特別収益計⑧	702,996
特別費用計⑨	2,515,870
特別増減差額⑩=⑧-⑨	-1,812,874
当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	-21,836,732
前期繰越活動増減差額⑫	2,370,668,192
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪+⑫	2,348,831,460
その他の積立金取崩額⑭	12,083,978
その他の積立金積立額⑮	64,500,000
次期繰越活動増減差額⑯=⑬+⑭-⑮	2,296,415,438

資金収支計算書 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)

資金収支計算書	
事業活動収入計①	2,973,152,538
事業活動支出計②	2,753,322,239
事業活動資金収支差額③=①-②	219,830,299
施設整備等収入計④	153,500
施設整備等支出計⑤	114,707,503
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	-114,554,003
その他の活動収入計⑦	23,119,179
その他の活動支出計⑧	84,732,500
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	-61,613,321
当期資金収支差額合計⑩=③+⑥-⑨	43,662,975
前期末支払資金残高⑪	635,103,078
当期末支払資金残高⑩+⑪	678,766,053



私たちは今、新型コロナウイルスのパンデミックの中「この時代をどう生きるか」が問われる時代の転換期にあります。

ただ、どんなにAI等の技術革新が進んだとしても、私たちは利用者様の命や安心、安全な生活を守る「エッセンシャルワーカー」としての専門性をより高めていかねばなりません。

本年度は2020年度に策定された「第IV期中期事業計画」の2年目に入ります。スローガンは引き続き「たのしもう、つながろう、そして乗り越えよう!!」。この目標の達成に向けたさまざまな活動に取り組んでいきます。赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず、安心して暮らせる共生社会を目指して、私たちはチャレンジし続けます。



1. 住み慣れた地域で「自分らしく」生きることの実現
2. 共生社会実現に向けて地域、社会の課題解決を図る活動
3. 成長し、支え合い、笑顔あふれる職場にする働き方改革



たのしもう、つながろう、そしてのりこえよう!

法人全体の共通目標

- ① 本人の「いいところ探し」から夢や願いの実現につながるよう、チームで取組む。
- ② 生活困窮、災害、まちづくり等の地域課題に包括的に応える。
- ③ SDGsの理解を深め、分野を超えた交流、研修を通して具体的に取組む。
- ④ 新人事管理制度"あすわers"の理解を深め、成長の意欲向上につなげる。
- ⑤ さまざまな立場の人が活躍し、支え合える職場環境を作る。
- ⑥ 足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生する。
- ⑦ ICT活用により、ペーパーレス化、会議短縮など業務改善を進める。
- ⑧ 小規模事業所の経営改善をはかり、法人全体の収支を向上させる。

法人全体で取り組む重点項目

本人中心の支援

子ども福祉、障がい者福祉、高齢者福祉それぞれの分野での支援計画策定やケース会議において、本人中心の視点(ストレングス、パーソンセンタードケア等)を徹底し、チームで取り組みます。

地域課題の解決

地域や社会全体のさまざまな課題(生活困窮、防災、まちづくり等)について、2030年に向けた「足羽福祉会SDGs宣言」を発信し、具体化した自分たちの行動目標に取り組みます。

新人事管理制度「あすわers」

制度2年目として、制度理解をいっそう進めます。また女性や障害のある方、高齢者が活躍できる体制を整えると同時に、中途採用職の採用および教育体制の充実強化を図ります。

ICT活用

ICTの積極活用として、権限移譲を明確にしながらの電子決裁導入、事務処理の簡素化(モバイル化)および情報共有化を推進しながら、ペーパーレス化を進めます。

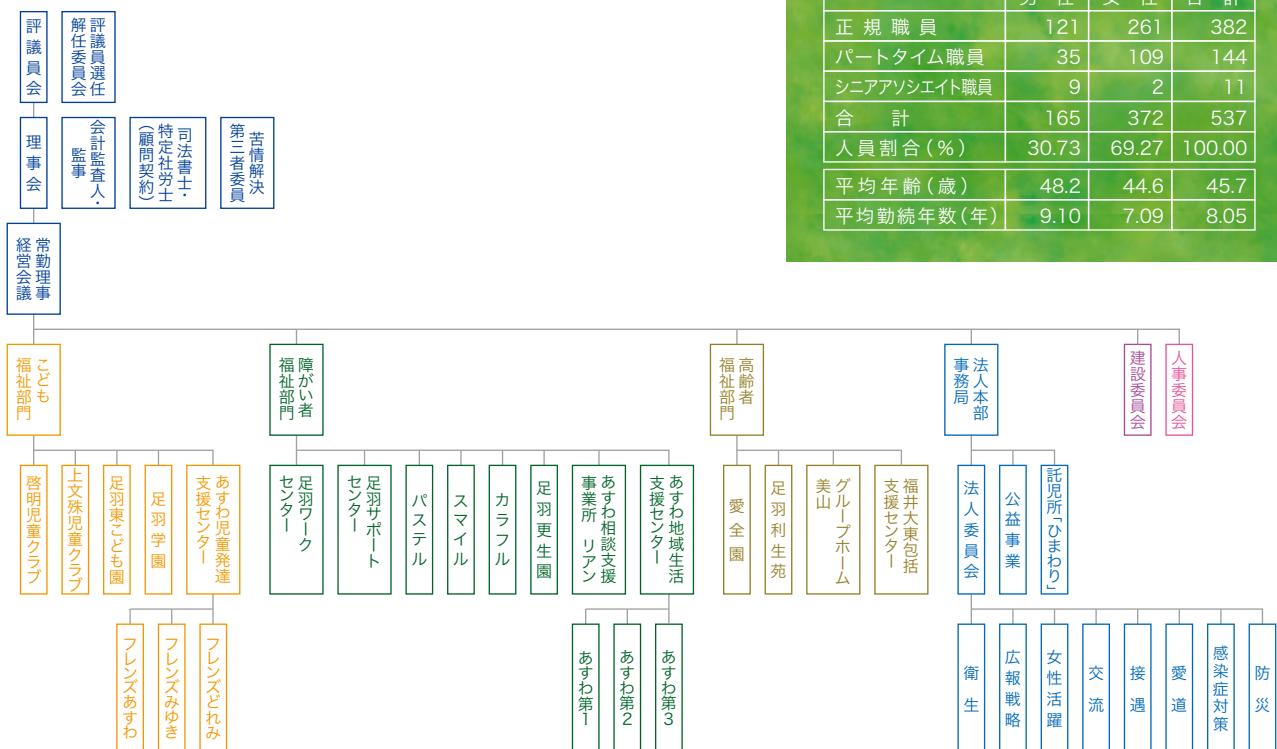
足羽東こども園舎改築

地域とのつながりの中で子どもたちが健やかに成長できるよりよい環境整備を行います。また工事期間中、別建物にて子どもたちが安全に過ごせるよう教育保育活動を行います。

小規模事業所の経営安定化

小規模事業所(あすわ児童発達支援センター拠点、パステル拠点、あすわ相談支援事業所リアン拠点)の経営安定化に向けた取組みを障がい福祉部門ならびに法人全体で支援します。

2021年度 足羽福祉会組織図



職員数等データ表

2021年4月1日時点

	男性	女性	合計
正規職員	121	261	382
パートタイム職員	35	109	144
シニアアソシエイト職員	9	2	11
合計	165	372	537
人員割合(%)	30.73	69.27	100.00
平均年齢(歳)	48.2	44.6	45.7
平均勤続年数(年)	9.10	7.09	8.05

新装・新築移転

「足羽東こども園」が新園舎に生まれ変わります

令和4年
3月(予定)



事業内容

幼保連携型認定こども園
(定員/1号:6名、2・3号:130名)

場所

〒919-0312
福井県福井市東大味町10-1-1

新園舎の屋根は、既存のふれあい棟(奥)も合わせ、上文殊地区で親しまれている文殊山の3つの峰をイメージしています。未満児(0~2歳)と以上児(3歳以上)は、子どもの成長や生活時間に合わせた保育室に分け、玩具の収納スペースなど子ども達が自発的に活動できる工夫を取り入れています。また、0・1歳児室は床暖房を整備、保育室から園庭まではウッドデッキを設けるなど自然を感じる空間も用意されます。一時預り室も備え、地域のニーズに対応できる保育スペースも確保されています。

「グループホームたんぽぽ」を新築移転します

令和4年
3月(予定)



事業内容

共同生活援助(定員10名)
短期入所(定員2名)
※定員減により一部の方は近隣グループホームへの移行を検討しています。

場所

〒918-8201
福井県福井市南四ツ居町2丁目3-303

平成20年に定員20名で開設したグループホーム「たんぽぽ」ですが、数年前より本来のグループホームのあるべき姿として「少人数で家庭的な雰囲気」を目指し少人数化に取り組んできました。現在13名の方が利用されていますが、近年は老朽化が進み利用者様にご不便をおかけすることも増えてきたため、今回新築移転することとなりました。

新しい「たんぽぽ」は、1階(定員6名)と2階(定員4名)の2ユニットとなります。

共に生き、共に集う、光を求めて



社会福祉法人
足羽福祉会

編著:足羽福祉会法人本部事務局



足羽福祉会ホームページ